



～笑顔と楽しさいっぱいの田井小学校～

学校評価だより

令和4年度前期

田井小学校

R4. 10. 6

田井小学校では、「田井小で一人一人が輝く」を目標として教育活動を進めています。その前期学校評価の結果と今後の取組の概要をお知らせします。



学校評価について

教育目標の具現化のために、知・徳・体部会で教育課題を明確にしてその解決を図っていきます。学校職員が児童・保護者の皆様を対象に行うアンケートや学力・体力テスト、生活アンケート等から実態を分析し、改善策を考えます。

9月1日（木）の学級懇談会では、各学級担任が保護者の皆様に前期学校評価の報告をさせていただきました。また、9月15日（木）の学校運営協議会では、学校が協議会委員の皆様が取組の進捗状況や改善策の方向性について説明をしました。協議会委員の皆様からは、第三者評価者としてご意見をいただきました。

学校運営協議会では、先日 TV 放映された田井小防災の日でのインタビューや見附音頭練習での全校児童の感想発表などで表現する児童の姿が立派だったという感想をいただきました。また、教育活動の成果と課題を子どもに分かるように伝え、今後の方向性を教師と子どもとで共有していくことが大切だというご意見をいただきました。



9月1日 学級懇談会

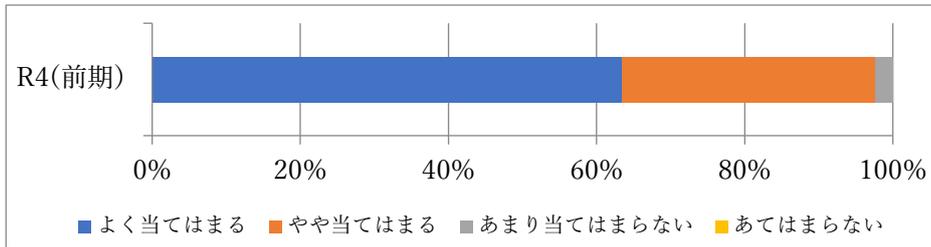


9月15日 学校運営協議会

よく考え進んで学ぶ子

◆目指す姿「伝わるまで表現する子」について

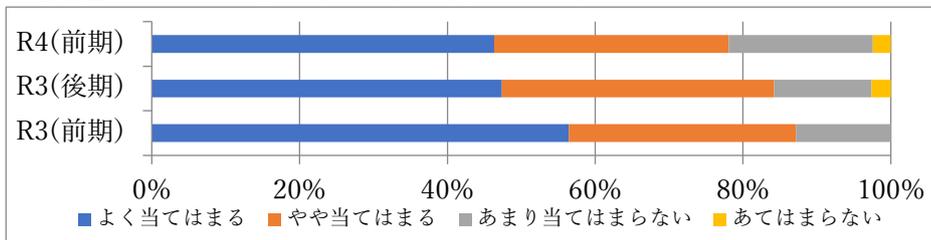
【児童アンケートより】～授業では自分の考えを友達に伝えるようにしていますか～(R4 から実施)



児童アンケートでは、ほぼすべての児童が自分の考えを友達に伝えるように表現していることが分かります。友達に自分の考えを分かりやすく伝えるための工夫をしていることが考えられます。

◆目指す姿「基礎基本の学習内容や方法を身に付けている子」について

【児童アンケートより】～本をたくさん読んでいますか～



「本をたくさん読んでいますか」という質問に、児童はおおむね肯定的評価をしていますが、否定的な評価をしている児童もいます。図書委員会による読み聞かせ、田井小必読書の表彰、ご家庭から協力いただいている家読など、読書への意欲付けを行っています。1学期に田井小必読書認定証を受領した児童は16人でした。今後、このような児童の意欲を学校全体に広げ、読書活動への足がかりとなる取組を推進していきます。

ドリルを活用しての基礎基本を身に付ける取組では、各学年「学年×10分」の家庭学習時間を目標に取り組んでいます。5月の達成率は67%、6月の達成率は50%でした。目標時間に達しなかった児童は、別の日にその分の学習をするなどの工夫が見られます。一方、取り組み方に個人差が大きいことも分かりました。見通しを持ったドリルの進め方など、学習方法について助言を必要としている児童がいることが考えられます。今後、学習方法について各担任が個別のアドバイスをしていくとともに、授業でもドリルを活用し基礎基本の力を身に付けられるようにします。

☆後期の取組

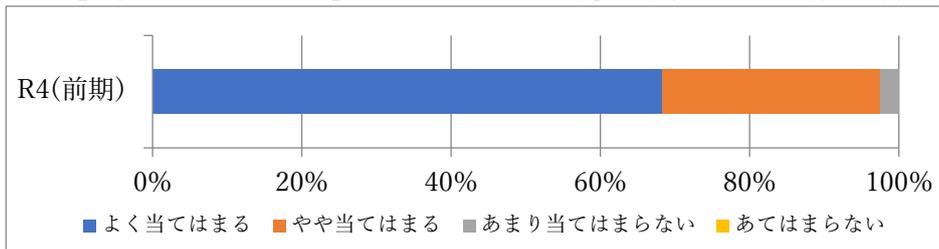
児童同士の対話による表現活動が深まる手立てを工夫します。自分の考えが相手に伝わったかどうか、質問し合ったり確認し合ったりするために、ICT 機器・話し方スキル・思考ツールなどを活用することで、お互いの考えを納得するまで伝え合う場を意図的に設定します。

読書活動については、引き続き読書の楽しさを味わえるような取組を推進していきます。また、各担任が読書時間や本の貸し出し時間の確保などを行い、児童が本と向き合える時間と場を設定します。

明るく思いやりのある子

◆目指す姿「子ども同士で高め合える子」について

【児童アンケートより】～「なかよしフレンズ班」の友達に思いやりを持って仲良く接していますか～（R4から実施）



児童アンケート結果から、ほぼすべての児童がなかよしフレンズ班（縦割り班）の活動で仲良く活動していることが分かりました。

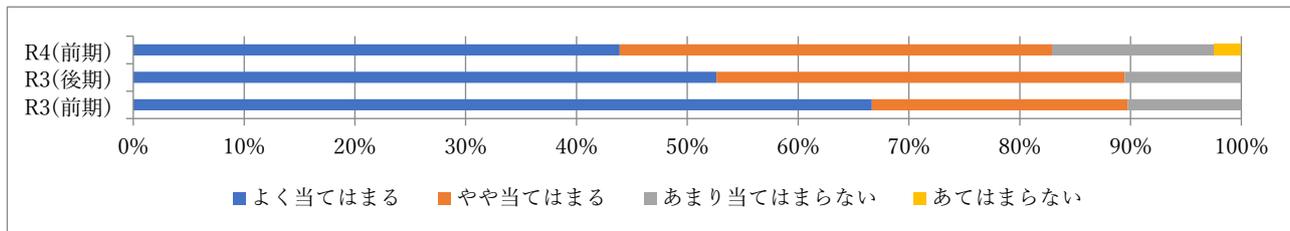
【1学期の学校生活アンケートより】

毎月の生活アンケートで一人一人の困り感や悩みを丁寧に聞き取り、解決につなげています。7月質問1の結果では「されている」と回答する児童が増加しましたが、職員間で連携して聞き取りや指導に当たり、困り感の解消につなげました。今後は周囲の子どもの困り感に気付き、行動できる子どもを育てるために、道徳授業をはじめ、日常活動やいじめ見逃しゼロ運動など、機会を逃さず指導をしていきます。

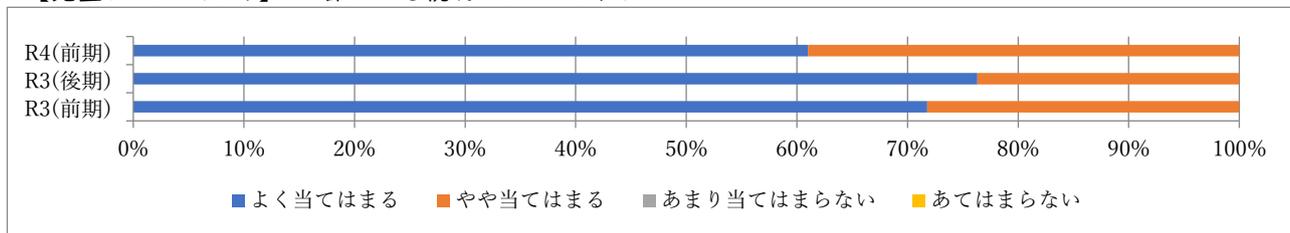
		4月	5月	6月	7月	
質問1	あなたは、今、友だちにいやなことをされたり、言われたり、無視されたりしていませんか。	されている	2	1	1	7
	されていない	39	40	40	33	
質問2	最近、いやなことをされている友だちや、困っている友だちを見たり、聞いたりしたことはありませんか。	ある	3	1	1	2
	ない	38	40	40	38	
質問3	あなたは、今、友だちのことでイライラしたり、困ったりしていることはありませんか。	ある	1	2	2	1
	ない	40	39	39	39	
質問4	そのほか、今、困っていることがありますか。	ある	2	1	3	1
	ない	39	40	39	39	

◆目指す姿「自分も友達も大切にする子」について

【児童アンケートより】～自分にはよいところがあると思いますか～



【児童アンケートより】～誰にでも親切にしていますか～



友達を大切にする一方、自己肯定感をなかなか感じられない児童が少なからずいます。

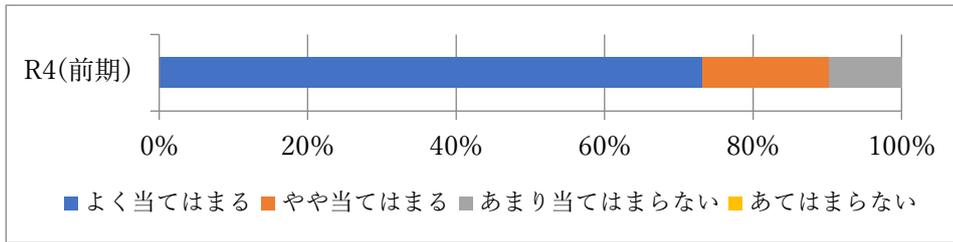
☆後期の取組

なかよし遠足やなかよしデーで自他のよさを振り返る場を確保します。友達と自分の良さに目を向けることが、自己肯定感の高まりにつながるよう支援します。また、情報モラル教育では、相手のことを考えた行動や自分自身の健康を守るためのネットとのつきあい方を学ぶ学習を推進し、自他を大切にすることを育てます。

元気でたくましい子

◆目指す姿「楽しく体を動かす子」について

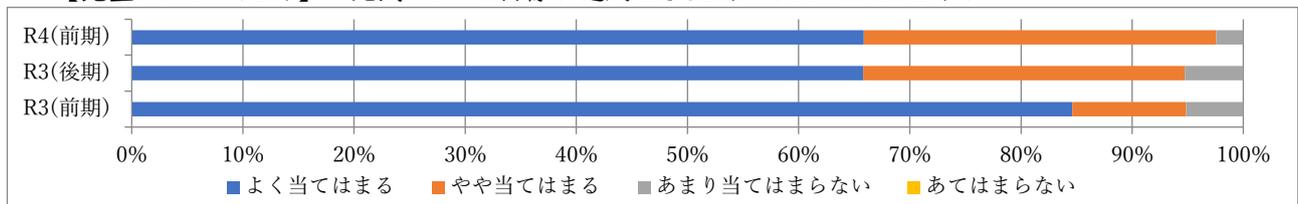
【児童アンケート】 ~体育の授業やゴーゴータイムで思い切り体を動かしていますか~ (R4から実施)



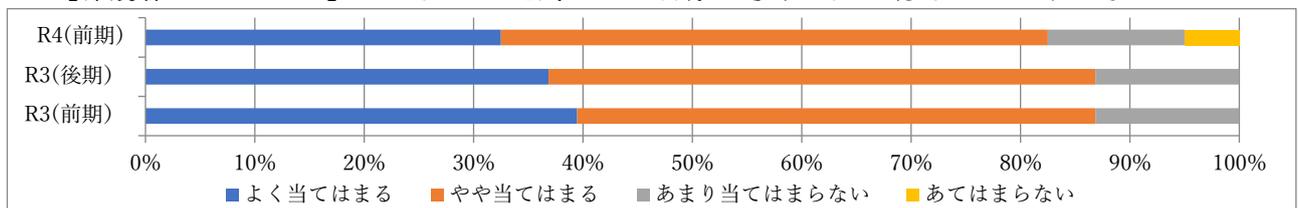
9割以上の児童が全力で体を動かすことに肯定的評価をしています。子どもたちは体を動かすことが大好きです。ゴーゴータイムでは、体力テストや持久走記録会に向けて汗だくになって運動しています。特に持久走記録会に向けての取組では、グラウンド周回記録を友達と競い合ったり、休み時間や放課後にグラウンドで自主練習をしたりと意欲的に取り組む姿が見られます。

◆目指す姿「よりよい生活習慣づくりに励む子」について

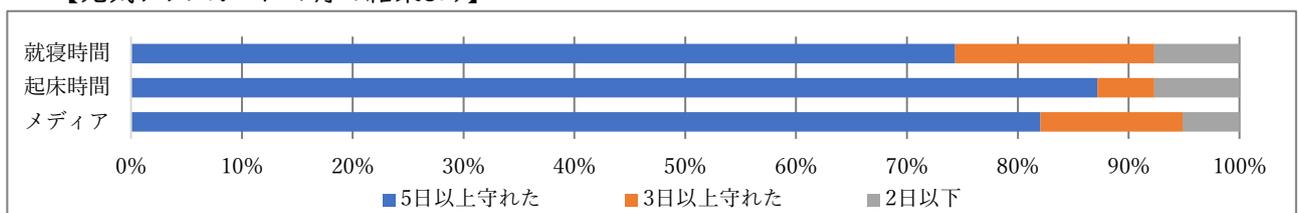
【児童アンケートより】 ~元気アップの目標が達成できるようにがんばっていますか~



【保護者アンケートより】 ~お子さんは元気アップの目標の達成に向けて規則正しい生活を送っていますか~



【元気アップカード 7月の結果より】



アンケートでは、ほぼすべての児童が肯定的評価であることに対し、保護者は約8割と児童と比較するとやや低くなっています。また、7月の元気アップ週間の取組と児童・保護者アンケートの結果を比較すると、意識と実際の姿にずれが生じています。朝は登校しなければならないため決めた時刻に起床しますが、夜はメディア（ゲーム、テレビ、YouTube など）が原因で、なかなか決めた時刻に就寝することが難しいことが考えられます。

☆後期の取組

体育授業での運動量の確保をどの学年でも行えるように、職員で研修を行い、そこで学んだことを授業に取り入れます。児童が段階的に技能を身に付け、全力で運動に取り組めるようにします。

情報教育部と連携し全学年で情報モラルの授業を実施します。また、メディアの代わりにお手伝いを奨励し、意識付けを行います。